



図8 動物ウイルスの相対的大きさと形態・構造の模式図(新居志郎：電子顕微鏡によるウイルス診断，病理と臨床 1992，10(臨増：病理組織診断における電子顕微鏡の有用性)：450-455より引用)

未熟児ではリスクがさらに高まる。帝王切開の適応である。生後に医療関係者から接触感染(院内感染)する危険性も指摘されている。皮膚に水疱が生じることがあるが、頭頸部を中心に皮疹を認めることがある(図6)。一般には、哺乳力低下、発熱、不活発、チアノーゼ、呼吸困難、肝腫大等の非特異的な臨床所見を認める。多くは生後3週間以内に死亡する。残念ながら、剖検ではじめて診断されることが多い。肝および副腎の壊死性病変が必発で、肺、腎、脾、膵が侵される症例もある。びまん性に核内封入体形成が観察される(図7)。エイズ等の免疫不全状態においては、成人に全身性HSV感染を経験することがあるものの、水痘・带状疱疹ウイルスによる全身感染症の頻度の方がはるかに高い。CMV全身感染との組織学的鑑別が必要となる。

カポジ水痘様発疹症 Kaposi's varicelliform eruption はヘルペス性湿疹 eczema herpeticum ともよばれる単純性疱疹の重症型である。皮膚疾患、とくにアトピー性皮膚炎(一部は脂漏性皮膚炎やグリ工病)を有する乳幼児の顔面に浮腫とともに紅暈を伴う小水疱・膿疱が形成され、全身に広がりうる。水痘に類似する皮疹はしばしば癒合して大きなびらん面を生じ、細菌の二次感染を伴う。最近、アトピー

一性皮膚炎の増加を背景として成人例が増加しつつある。大多数がHSV-1感染による。接触による一次感染の場合と持続感染の再燃による場合がある。アシクロビル投与が有効で、予後は良好である。ただし、乳幼児の一次感染の場合はウイルス血症を伴い、死に至ることがある。組織学的には、多核巨細胞と核内封入体を伴う表皮内水疱の形成が確認される。

図8に病原性ウイルスの大きさと形態・構造の模式図を示す。

参考文献

- 1) 倉田 毅：単純ヘルペスウイルスと皮膚粘膜病変の病理。病理と臨床 1985，3：595-598
- 2) 「ウイルス感染症。最近の進歩」。臨床と微生物 18(2)，1991
- 3) 川名 尚：単純ヘルペスウイルス2型感染症。医学のあゆみ 1996，177：890-893
- 4) 岩田 敏：単純ヘルペス感染症。感染症症候群Ⅲ，別冊日本臨床 領域別症候群シリーズ 25，日本臨床社，大阪，1999，175-180